

平成 29 年 9 月

ソフトウェアエンジニアリング標準化研究会 設立企画書（案）

平成 28 年度標準化委員会有志

1. 目的

現代の社会を支えるシステム開発を成功に導くため、標準化に関する事例研究、情報共有を行うことにより、情報サービス産業においてソフトウェアエンジニアリング分野の標準の活用をリードできる人材の発掘・育成に寄与する。

2. 問題認識

現代社会における私たちの生活は、ICT を活用した「社会システム」として機能しています。

IoT、AI、ビッグデータ、クラウド、アジャイルといったパラダイムシフトの真ただ中です。これからは単一ではなく複数のシステム（ソフトウェア、ハードウェア、ファームウェア、情報、人、技術、設備、サービス）を組み合わせ、新しい価値を生み出す時代を迎えています。

システム開発の世界はますます複雑になっており、短納期、新技術の採用、変化に富む顧客要求、多彩な業務のナレッジ不足、マネジメント不良等、多くの課題を抱え、若手技術者達の日々その対応に追われる状況は、なかなか好転しません。

標準化は、システムの結合、品質、開發生産性、開発健全性を支える重要な基盤です。今、新しい技術に対する標準化の取り組みも始まっており、その知見を学び共有することで、社会システムの品質向上を目指すことが重要であると考えます。

3. 活動内容

(1) 活動方針

多彩な社会システムを支える開発現場の若手技術者と共に、最新の技術に対する標準化の動向を学び、「品質・生産性向上」「知見の共有・技術の伝承」をテーマに、標準化の重要性を啓発する場が必要です。

品質、マネジメントなど、様々なシステム開発プロジェクトを円滑に進める知識・技能の教育に力を入れている企業も多いと思いますが、納期に追われ、開発業務に明け暮れ、リソース不足のため、教育の機会を与えることができない企業も少なからずあると思います。

そのような企業に所属している技術者の方々にも、システム開発を成功に導く標準化の意義を理解していただき、興味を抱いていただけるような場とコミュニティを作りたいと考えます。

(2) 活動内容

1) 研究会活動は、以下のメニューを考えます。

- ・システム開発の標準的水準向上の観点から、日本のシステム開発プロジェクトの成功・失

敗の事例の教訓化

- ・ 関連機関等との交流による標準化動向の情報共有
- ・ 新しい技術トレンド（IoT、SOS 等）に対する公開された規格のレビュー
- ・ 標準化によるプロセス改善等ソフトウェアエンジニアリング分野の問題解決事例の収集と周知
- ・ 研究会参加者による情報交換

※活動形態は、対面の会議形式だけでなく、Web 会議ツール等を活用した遠隔地からのリモート参加、メーリングリスト、Facebook グループを活用した情報共有を行う等、物理的に会合に参加できない方も加われる環境を整備する。

2) 研究成果については、知見の共有を目的として、以下の形で業界に還元する機会を検討します。

- ・ JISA の Web サイトへの掲載
- ・ 研究会発信のセミナー、ワークショップの開催
- ・ JDMF 他、IT 業界への論文発表等、何等かの発表の場を設ける

4. 体制等

幹事 : 川田葉子 (株) 構造計画研究所

メンバー : 平成 28 年度標準化委員会の有志と新規参加者

5. スケジュール

活動内容に従い、当面月 1 回程度の開催とする。

6. 事務局担当

田原、會木

以上